



阿波三峰

# 朝念暮念

## 中津峰山如意輪寺

徳島市多家良町中津峰  
TEL088-645-0008 FAX645-0508  
http://www.mt.ne.jp/~nyoirin  
nyoirin@nmt.ne.jp

親子の鐘の中津峰

バス便、2/20 3/19:30ア三前発

問い合わせ合わせ : 徳島市バス観光課 088-652-2133

## 斎藤義人氏当山二代目 奉賛会長へご就任

当山第二代奉賛会長に斎藤義人氏にご就任いただきましたこととなりました。一月三十一日武市先生の満中陰を経て、二月二日副会長の斎藤義人氏に総代会一同の総意をもって、懇願しご快諾を頂きました。氏は斎藤株式会社社長、同社は明治五年(一八七二年)大道一丁目(初代斎藤徳蔵氏が創業。当山中興雲洲戒賢大和尚は初代徳蔵氏のご舎弟。爾来、当山は歴代の御当主に庇護を承り、今日にいたるまで、義人氏は五代目御当主。襲名しないで斎藤株式会社と会社に名をのこされた。現在、斎藤第二ビル(ワン)トンホテル)の位置が斎藤株式会社(斎藤の地)の地、会社は川内の流通団地内で営業している。流通団地理事長、元徳島県公安委員長他、経済界、県内外等々で役職が多い。当山には月参りを欠かさず、山にはご夫婦で歩いて登山され山頂登られることもある。また、副住職夫婦の媒酌人でもある。

## どううちがうの

霊感商法とサイババとどううちがうの?との質問を受けた。まずは返答に困った。理由は両者比較するだけの知識を持たないからだ。前者の霊感商法は個々の事例によって異なり、サイババの場合には通俗の週刊誌、テレビによる報道の断片しか知らない。しかし、なんとか考えねばなるまい。前者の勝手な解釈を試みると宗教風な雰囲気、利潤の追求を目的とする集団といえる。逆の新興宗教、新宗教、利みならず既成宗教全般、利潤追求がないとはいえない。逆に霊感商法そのものスバリで逮捕されたAは当山の瀧で毎朝四時に来て百日あまり修行をしてきた事実も知っている。この色分けはたいへん難しい。霊感商法といわれる宗団が何かの法令に触れる捕者を出すか否かというの一番簡単な明瞭な基準である。

百人をこす貧しい人たちに自分で施さないと功德がない。同時に長者としてのステータスが保たれない。因みに長者とはこういって布施をする。ところが前提のお金持ちという意味の佛教語である。これがインドの伝統である。サイババはそういったインドの伝統にそって病院を運営している。そこにはあるまいか。全世界から信者を集めようと派手にマニマニに売り込もうと基本は布施にあると思える。それに反し、日本の霊感商法はまず商法あり、利潤は布施行に使われず、自分を飾り立てることに使う。それはキンキラキンのお堂をも含む。そついう集団のうえにもう一つ怖いのが、集めた財力をもって兵器や毒ガスを作り、大量無差別殺人までやった集団、オームである。修行とやつたことは三十七人を殺し、五千人を越える負傷者を出した。それをマスコミはまたまたもてはやしている。しかし、大量殺人の折と本質は変わらない。こついう集団をカルト集団という。カルトは商業カルト、政治カルト、教育カルト等々の分野で存在する。それらは心に傷を付け型を作っていく。このカルト宗団の宗教版というだけなのである。

## 私を住民投票に 行かせたもの

一月二十三日(日)吉野川第十堰の可動堰化の賛否を問う徳島市の住民投票が行われた。私は本誌に何度も述べた通り、私は住民投票等の直接投票は反対論者である。その論は繰り返して述べないことにしたが、今回はちやんと投票にいった。なぜか、五十%を越えたと無効になるという規定があったからだ。今度の選挙の特色を多家良投票所の立会人に取材すると今まで選挙に大挙してやってきた老人パワーカーは全くいなかった。その代わり幼稚園、保育所のパパママ、茶髪の若者が断然多かったという。若者はこんな選挙だけではない。公職選挙法において若者が駆られるのは魅力ある人物がいらないのではないかと。住民投票までにはそれを推進したみなさんのねばり強い運動があったこと、否めないう。若さゆえできたことである。反面、住民投票反対論をブツテ、市議を落選した友人もいる。ある党派は徳島県議会と徳島市議会の意見を異にする。あるいは住民投票を怖がりながら、反対する票をわけていかぬ市議員先生もいた。そうした市議

の先生方が知恵を絞ったのが、最初住民投票期日なしの条例にはじまり、五十%以下は無効というルールではなかった。これらは先生方は間接民主主義志向の政治家といえよう。彼らがまさかクリアできるまいとして五十%ルールを作ったに違いない。吉野川に關係のつすい私は可動堰の是非を云々いつのはおこがましいと今も思っている。しかし、推進派の戦略が選挙ポイット運動をやっている。考えてみるとこの罠にかかってしまっている。徳島市民の存在をアピールするには投票しかない。夕方、投票所へ行くときが多量投票所での過半数に近いという。あとどんでん来ている。外で話を拾ってみると、「この投票を無効にするのは徳島市民の恥だ」としてきたという。これが吉野川に一番遠い多家良町の声であった。反面、洪水のおそれがある地区の人たちのなかには積極的選挙をポイットした人も多いのだから、本誌を正月号を見て石井町、北島町、藍住町の人々から「私の代わりによろしく(後略)」と旧知で住民投票運動と全く関係ない人から電話があった。当日は私は第十の堰を枕にして住んでいないのに投票権がない。(石井町)「私に決壊したら浸かるのにこんな上にお住いさん(北島町)との生の声を信者さんから聞いた。私はこの声に普段の選挙には一票の重みを感じたものであった。建設費、徳島県は責任云々をいうけれど賛成、反対問わず今一番運動している人たちは洪水で命を失うかも知れない場所の人たちである。しかも先祖伝来吉野

